3-3　南部地域（小野部田・河江・小川校区）のまちづくり構想

3-3-1　南部地域の概況

概ね、九州自動車道より東側が都市計画区域外である山林、西側が、不知火海湾奥部に細く伸びる農用地を除いて、幹線道路沿道の市街地や集落およびそれら周辺の田園地帯からなる都市計画区域です。現在用途地域は指定されていませんが、河江校区には、市内２駅の１つである小川駅や駅前商店街が存するとともに、市内外からの集客力の強い大型商業施設が国道３号沿道に立地し、さらに、小川校区には県道 32 号線沿いを中心とした古くからの商店街や市街地も形成され、歴史的な街並みを残しています。

また、小川校区では、女性グループによる風の館・塩屋や、商工会による空き店舗を利用したコミュニティハウスが設置されるなど、地域住民による地域の活性化に向けた取り組みが盛んな地域です。

平成 19 年度の市民アンケートでは、「快適性」は３校区とも満足度が高く、「利便性」と「安全性」は、小野部田校区・河江校区では満足、小川校区では不満と分かれています。また、「基盤整備」は３校区とも不満が多く、とくに「基盤整備（公園）」は３校区共通の不満項目です。

①人口動向

市人口が微減傾向に転じた一方、都市計画区域人口は増加を続けている状況において、都市計画区域に関与する８校区も全体では増加傾向を示していますが、その中で小野部田校区の人口はもっとも少なく平成 17 年で 2,136 人であり、微減から横ばいで推移しています。また、河江校区は人口の多い５校区に含まれ平成 17 年で 6,629 人であり、増加を続けています。および、小川校区の人口は２番目に少なく平成 17 年で 2,753 人であり、微減で推移しています。

なお、本地域３校区合計では、平成 7 年 11,539 人・平成 12 年 11,618 人・平成 17 年 11,518 人と微増から微減に転じ、平成 17 年は８校区全体 44,235 人の 26.0%という状況です。

②新築動向

都市計画区域内の建物新築動向を見ると、８校区全体では平成 12 年から 17 年の６年間で 1,645 棟（年平均 274 棟）の新築件数があります。校区別に見ると、いずれの校区も住宅が大半を占めていることから人口の大小と比例した新築件数の大小となっており、小野部田校区は６年間で 82 棟（年平均 14 棟）、河江校区は６年間で 269 棟（年平均 45 棟）、小川校区は６年間で 60 棟（年平均 10 棟）という状況です。なお、本地域３校区合計では６年間で 411 棟（年平均 69 棟）と３地域全体の 25.0%となっています。

一方、分布を見ると、幹線道路沿道をはじめ市街地や集落の全体的に分散している状況です。

③土地利用状況

都市計画区域内の土地利用別面積を校区別に多い順で見ると、小野部田校区は「田」277ha・「住宅用地」45ha・「道路用地」29ha、河江校区は「田」443ha・「住宅用地」102ha・「道路用地」54ha、小川校区は「田」119ha・「住宅用地」34ha・「山林」29ha となっており、本地域は、３校区の面積的な構成が比較的似ているです。

また、３校区合計では、自然的土地利用 1,052ha（70.2%）・都市的土地利用 446ha（29.8%）となっており、自然的土地利用のほうがかなり多い地域です。

なお、本地域３校区とも都市的土地利用に占める割合は「宅地」がもっとも多く、小野部田校区では 92ha の５割以上に当たる 49ha、河江校区では 247ha の６割強に当たる 152ha、小川校区では 107ha の５割強に当たる 56ha が宅地となっています。

④道路状況

都市計画区域内の道路状況を見ると、８校区全体の総延長 357,117mのうち、小野部田校区は49,473m（13.9%）、河江校区は93,229m（26.1%）、小川校区は33,356m（9.3%）となっており、本地域３校区の合計176,058mは３地域全体の約半分（49.3%）に相当します。

道路幅員別に見ると、「4m以上 12m未満」の道路の占める割合が高い校区が多い状況ですが、「4m未満」のいわゆる細街路を見ると、小野部田校区は８校区全体で２番目に低い 22.1%、河江校区は３番目に高い35.5%、小川校区は比較的多い31.3%と校区間で特徴があり、３校区の「4m未満」合計は30.9%（54,448m/176,058m）となっています。

一方、分布を見ると、３校区とも市街地や集落の全体的に細街路が存在しており、とくに、小野部田校区の県道沿いの集落、小川校区の商店街周辺やその東部の集落など、不整形な細街路が多いエリアも見受けられます。河江校区においては、国道３号沿道の大規模商業施設周辺は、「12m以上」を含め広幅員の道路が多い状況です。

⑤都市施設状況等

本地域には、現在、用途地域や都市計画道路・都市計画公園の指定はありませんが、小川校区において、都市公園としての観音山公園が市街地東部に位置しています。

公共下水道の管路が、３校区とも主に幹線道路に沿って敷設されているとともに、河江校区において、砂川左岸に砂川汚水中継ポンプ場が立地しています。

都市計画区域内の現況市街地類型と 南部地域の該当類型（赤色）

面的整備地域	大規模開発地	ｽﾌﾟﾛｰﾙ進行地	既成市街地	一般市街地	農村集落地
	河江校区			小野部田校区 河江校区 小川校区	小野部田校区 河江校区 小川校区

▼

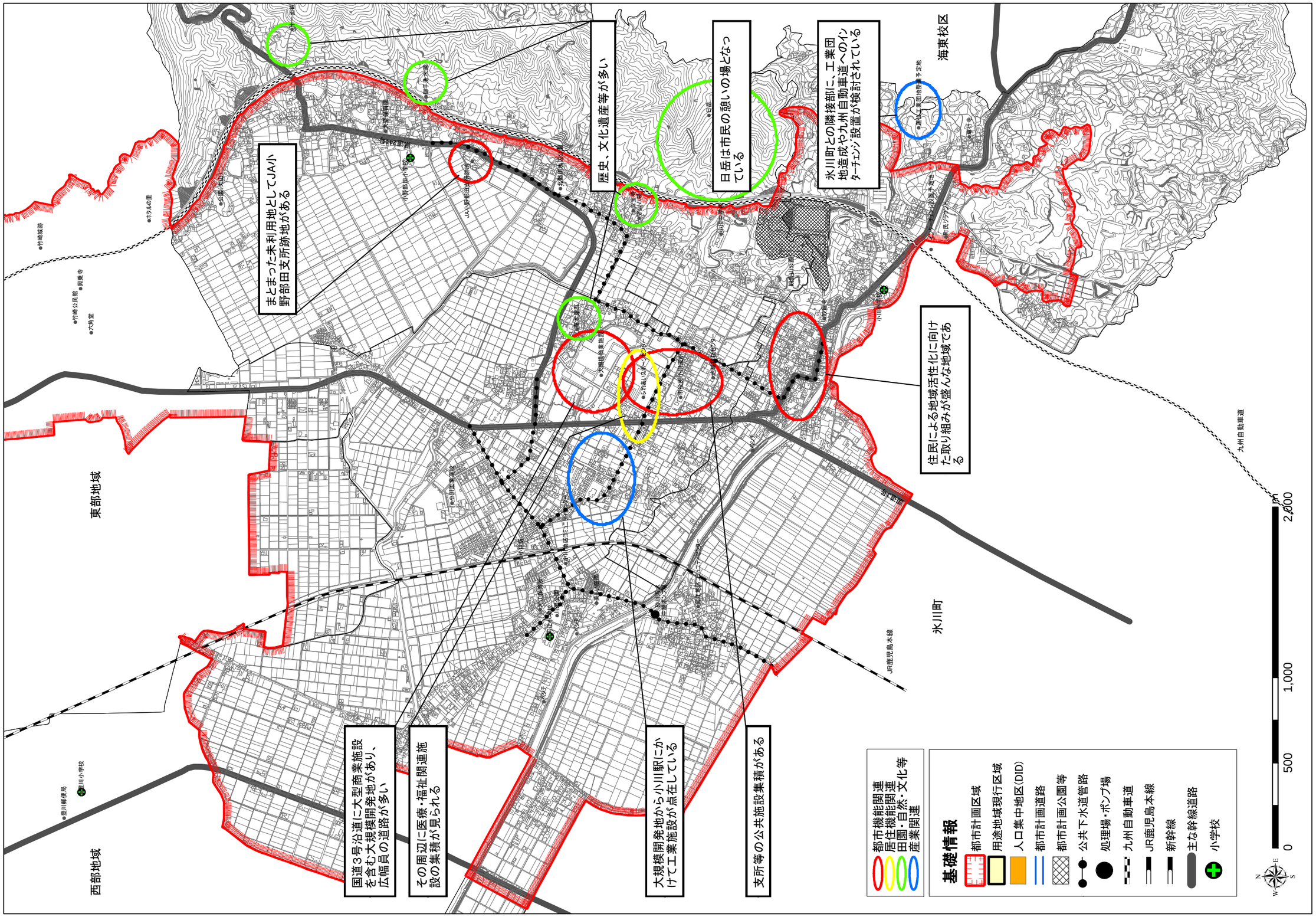
地域の問題点	小野部田	河江	小川
・県道244号線の渋滞	○		
・国道3号の渋滞		○	○
・県道32号線の渋滞			○
・道路整備の遅れ	○	○	○
・細街路の多い密集市街地の分布	○		○
・既存商店街の衰退		○	○
・街区公園等の身近な公園の不足	○	○	○
・人口の減少、停滞	○		○

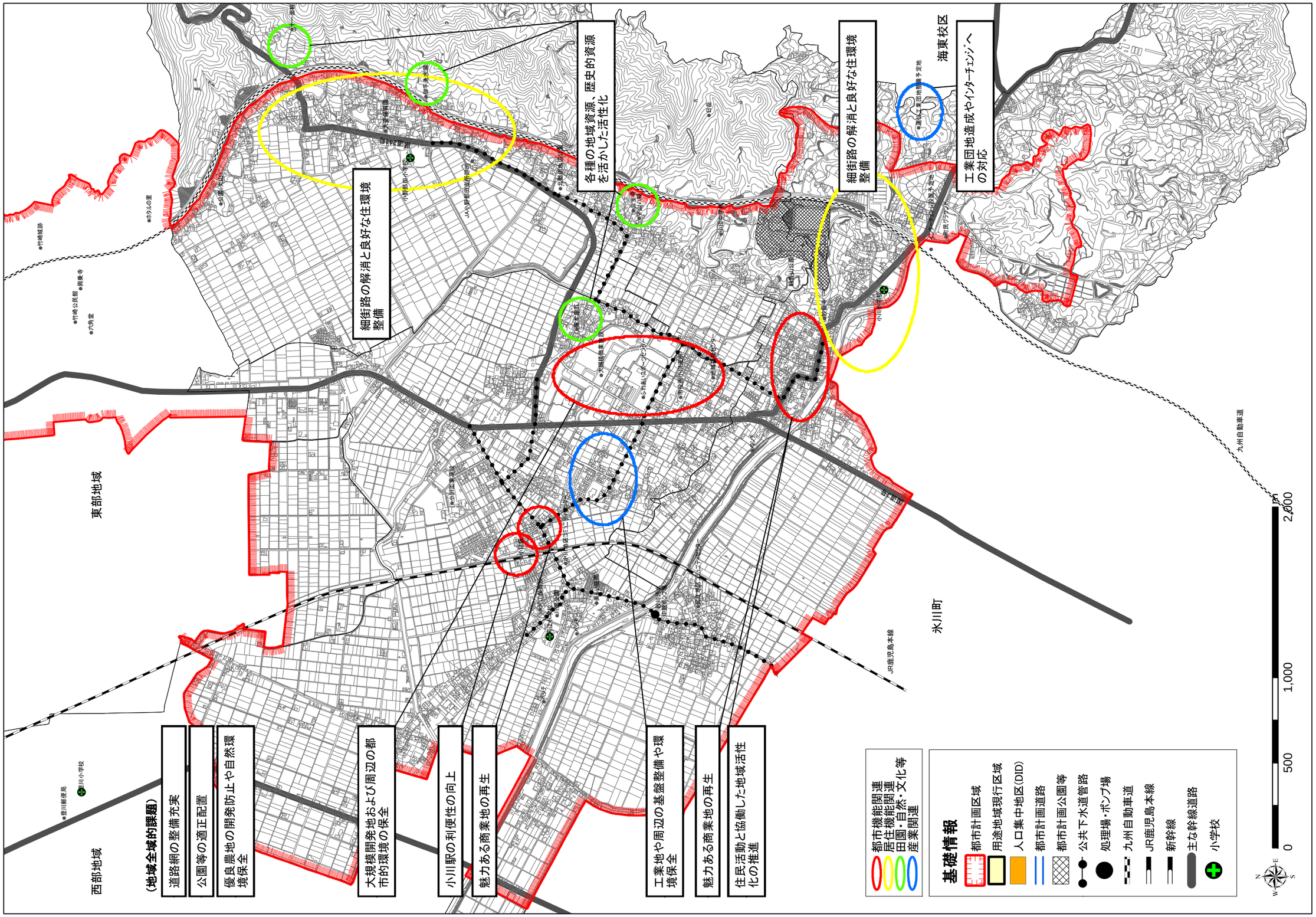
▶

地域整備の課題	小野部田	河江	小川
・道路網の整備充実	○	○	○
・細街路の解消と良好な住環境整備	○	○	○
・大規模開発地および周辺の都市的環境の保全		○	
・魅力ある商業地の再生		○	○
・住民活動と協働した地域活性化の推進			○
・小川駅の利便性の向上		○	
・公園等の適正配置	○	○	○
・工業地や周辺の基盤整備や環境保全		○	
・工業団地造成やｲﾝﾀｰﾁｪﾝｼﾞへの対応			○
・各種の地域資源、歴史的資源を活かした活性化	○		○
・優良農地の開発防止や自然環境保全	○	○	○

◀

地域の特性	小野部田	河江	小川
・国道3号沿道に大型商業施設を含む大規模開発地があり、広幅員の道路が多い		○	
・その周辺に医療･福祉関連施設の集積が見られる		○	
・支所等の公共施設集積がある		○	
・住民による地域活性化に向けた取り組みが盛んな地域である			○
・大規模開発地から小川駅にかけて工業施設が点在している		○	
・氷川町との隣接部に、工業団地造成や九州自動車道へのｲﾝﾀｰﾁｪﾝｼﾞ設置が検討されている			○
・歴史、文化遺産等が多い	○		○
・日岳は市民の憩いの場となっている	○		
・まとまった未利用地としてJA小野部田支所跡地がある	○		


まとまった未利用地としてJA小野部田支所跡地がある
歴史、文化遺産等が多い
日岳は市民の憩いの場となっている
氷川町との隣接部に、工業団地造成や九州自動車道へのインターチェンジ設置が検討されている
海東校区
住民による地域活性化に向けた取り組みが盛んな地域である
東部地域
西部地域
氷川町
九州自動車道
JR鹿児島本線
国道3号沿道に大型商業施設を含む大規模開発地が多い
その周辺に医療・福祉関連施設の集積が見られる
大規模開発地から小川駅にかけて工業施設が点在している
支所等の公共施設集積がある
都市機能関連
居住機能関連
田園・自然・文化等
産業関連
基礎情報
都市計画区域
用途地域現行区域
人口集中地区(DID)
都市計画道路
都市計画公園等
公共下水道管路
処理場・ポンプ場
九州自動車道
JR鹿児島本線
新幹線
主な幹線道路
小学校
0
500
1,000
2,000


細街路の解消と良好な住環境整備
各種の地域資源、歴史的資源を活かした活性化
細街路の解消と良好な住環境整備
工業団地造成やインターチェンジへの対応
海東校区
東部地域
西部地域
氷川町
九州自動車道
JR鹿児島本線
（地域全域的課題）
道路網の整備充実
公園等の適正配置
優良農地の開発防止や自然環境保全
大規模開発地および周辺の都市的環境の保全
小川駅の利便性の向上
魅力ある商業地の再生
工業地や周辺の基盤整備や環境保全
魅力ある商業地の再生
住民活動と協働した地域活性化の推進
都市機能関連
居住機能関連
田園・自然・文化等
産業関連
基礎情報
都市計画区域
用途地域現行区域
人口集中地区(DID)
都市計画道路
都市計画公園等
公共下水道管路
処理場・ポンプ場
九州自動車道
JR鹿児島本線
新幹線
主な幹線道路
小学校
0
500
1,000
2,000

3-3-2　南部地域の将来像と整備の基本方向

地域の将来像と整備の基本方向を定めるにあたっては、地域の概況や特性を念頭に置くとともに、まず、

「市民ワークショップにおいて
提案された校区ごとの将来像」

および

**「宇城市国土利用計画において
掲げられた、校区ごとの目標」**

を踏まえ、本地域がとくに留意すべきと判断される事項を

「全体構想における“都市づくりの方向”」

に照らして把握・設定します。

上段：　市民ワークショップにおいて提案された校区ごとの将来像

下段：　宇城市国土利用計画において掲げられた、校区ごとの目標

↓

		全体構想“都市づくりの方向”と南部地域がとくに留意すべき事項												
		①市の広域的な位置と役割			②市の都市の現状や時代潮流、上位計画を踏まえた都市づくりの課題									
		◆広域的な交通結節点	◆熊本市、八代市の中央に位置する住宅都市	◆自然に恵まれた田園都市	◆人口の停滞と少子高齢化への対応			◆豊かな自然環境を活かした都市環境形成		◆暮らしの安全性と快適性の向上			◆宇城市の個性・魅力づくりと交流推進		
					・コンパクトシティ化	・中心市街地の活性化	・市街地のバリアフリー化	・良好な自然環境の保全	・水と緑を活かした居住環境の質的向上	・都市施設の整備充実	・交通環境の充実	・市街地の防災性向上	・自然や歴史文化資源の活用	・地域資源の活用による交流人口の拡大	・産業基盤の整備と賑わいの創出
小野部田校区	緑と歴史のある住み良いまち ○ 豊かな自然・歴史的環境を、守り育む土地利用の推進 ○ 医療・福祉体制が充実した、高齢者にもやさしい安心して暮らしつづけることのできる土地利用の推進			●				●			●		●		
河江校区	自然・心豊かな明るい未来都市 ○ 大型商業施設周辺の遊休土地の利活用を図る土地利用の推進 ○ 道路等の都市基盤施設、医療・福祉体制の充実による快適な生活環境を育む土地利用の推進				●	●	●			●	●				●
小川校区	立ちどまれば歴史が、歩めば未来が感じられる街 ○ 既存の商店街等の活性化に地域ぐるみで取り組み、賑わいの再生を図る土地利用の推進 ○ 防災・福祉・医療体制の充実を図り、安全・安心して暮らせる土地利用の推進				●	●	●			●	●		●		●

以上を踏まえ、本地域の将来像と整備の基本方向を次のように定めます。

【南部地域（小野部田・河江・小川校区）の将来像】

本地域は、豊富な歴史・文化遺産や歴史的な街並みの商店街を有すると同時に、大型商業施設やスポーツ施設など近年建設された都市機能が共存している地域であり、本市南部の拠点地域として、全体構想において「商業・業務拠点地区」や「公園・レク拠点地区」が位置づけられた地域です。

これらは、市民ワークショップの提案における「歴史」「明るい未来都市」といったキーワードや、国土利用計画も踏まえて照らした「全体構想における“都市づくりの方向”」における「中心市街地」「歴史文化資源」「産業基盤の整備と賑わい」といったキーワードからも確認されます。

以上を踏まえ、本地域は、「自然的・都市的な歴史や文化」と「大型商業等の都市機能」の共存を未来に向けて守り・育み、だれもが明るく暮らせるまちを目指すものとし、将来像を以下のように設定します。

地域の将来像

歴史や文化の薫り、未来への活気を感じられるまち

【南部地域（小野部田・河江・小川校区）整備の基本方向】

豊かな農地・山林や豊富な歴史・文化遺産など本市の資源を多く有する地域であるとともに、国道３号沿道の無秩序な開発等を抑制する目的で行う都市計画区域の見直しに係る地域であり、大型商業施設を含む大規模開発地や旧来からの商店街、医療・福祉関連施設集積地、公共施設集積地、さらには高校やふれあいスポーツセンター等を有しています。

それら各種地域資源の保全や充実を図るとともに、まち自体が文化遺産のような歴史ある商店街を守りつつ、これまで以上に地域活性化に向けた住民活動が展開され、誰もが生き生きと暮らしを謳歌できるよう、住んでいる人・訪れる人みんなが元気で明るくなるまちを目指して、土地利用や都市施設整備を推進します。

小川阿蘇神社獅子舞

3-3-3　南部地域の整備方針

■土地利用

【一般市街地】

快適な居住環境形成のため、地域の立地条件を勘案しながら各種事業等を推進し、公共施設や生活基盤施設等の適正な配置整備を促進し、コミュニティづくりに対応した潤いのある環境づくりを推進します。

なお、小野部田校区において、まとまった規模の都市的未利用地である JA 小野部田支所跡地を活かした土地の利活用を検討します。

また、河江校区や小川校区に存する既存の商店街については、住民活動と協働し、空き店舗の活用によるコミュニティの醸成など地域活性化に資する土地利用に努めます。

【農村集落地】

居住環境の整備が遅れているため、自然環境に配慮した集落排水処理事業・公園整備事業・道路整備事業等の個別事業の推進により、環境配慮型の集落地の形成を図ります。

【大規模開発地】

国道３号沿道の大規模開発地やその周辺については、道路等の良好な都市基盤の保全を図るとともに、公共施設等の集積を活かした都市的環境の保全に努めます。

※用途地域について：全体構想に基づく本市南部の拠点地区を構成する地域として、土地利用の整序や純化による効率的な市街地形成の推進を目指して、用途地域の導入を検討します。

■都市施設

◇交通施設

地域の中央を南北に走る国道３号や、小川校区に連なる県道 32 号線、小野部田校区に連なる県道 244 号線等の主たる幹線道路は、交通量も多く危険性も高いことから、整備計画の検討を進め、道路の拡幅、広歩道の設置等による安全で快適な道路環境の推進を図ります。

また、通過交通の排除と地域の生活軸の観点から、新規路線の整備についても推進します。

市街地や農村集落内の生活道路については、細街路・狭隘道路が多く防災面でも問題が多いため、地区計画制度等の導入による整備を図り、安全で利便性が高く、計画的な道路網の形成を図ります。

◇公園・緑地

小野部田校区については、多く点在する歴史、文化遺産等について保全･整備を図るとともに、それらのネットワーク化を推進します。

また、小川校区については、観音山公園を地域のみならず本市の重要なレクリエーション拠点としてとらえ、保全・整備を図ります。

なお、河江校区について、校区の人口増加に対応した中規模の公園整備について検討するとともに、地域全域的に、住民に身近な公園として各住区内での街区公園の適正配置に努めつつ、防災面を考慮したオープンスペースとしての公園・緑地の確保にも努めます。

◇河川・下水道

河川については、改修率を高めるとともに、改修の際には、治水面と併せて親水性にも配慮した整備に努めます。

地域のほぼ全域で整備されている下水道については、水洗化の励行、施設の維持・管理等に努め、水の浄化を図るとともに、今後土地利用計画との調整のもと、計画区域の拡大についても推進します。

また、農村集落地は集落の規模や土地利用条件等を考慮し、集落排水処理整備や合併処理浄化槽設置事業等により排水浄化に努めます。

◇その他の施設

上水道は、河江校区から小川校区にかけての市街地、および小野部田校区の東部の集落内について整備されていますが、とくに小野部田校区では湧水も多くあり、小規模な簡易水道施設を使用している地区もあります。

河江校区を中心として新たな集合住宅等の建設が進んでおり、今後の水需要増大に備え、安全な水道水を安定供給するために、施設の整備拡充を推進します。

なお、商業施設や企業誘致に対しても安全で良質な水道水の安定供給を推進します。

■都市景観

市街地を中心として、公共空間・公園・道路・オープンスペース等の緑化推進を図るとともに、電柱・広告物等の要素を景観の面から見直し、快適性・求心性の高い心地よい都市景観の形成に努めます。

また、主要幹線及び幹線道路沿道は、まちをアピールする観点から、本市にふさわしい景観を目指し、良好な沿道景観の構築を図ります。

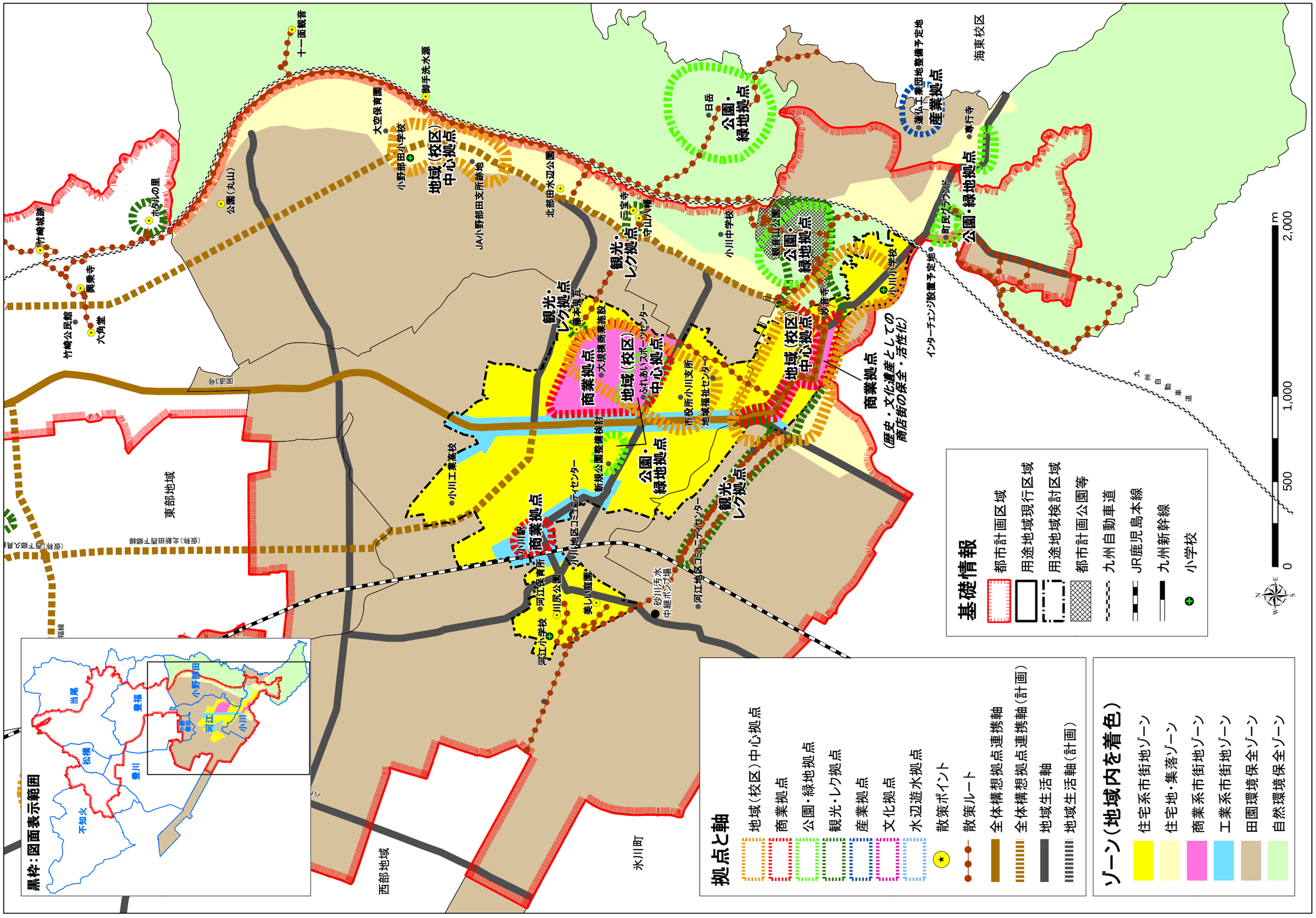
なお、市街地における緑は、景観面でも重要な役割を果たす緑地でもあるため、景観を構成する要素として積極的に保全するとともに、地域に多く点在する歴史・文化遺産等についても、景観の観点から整備・保全に努めます。

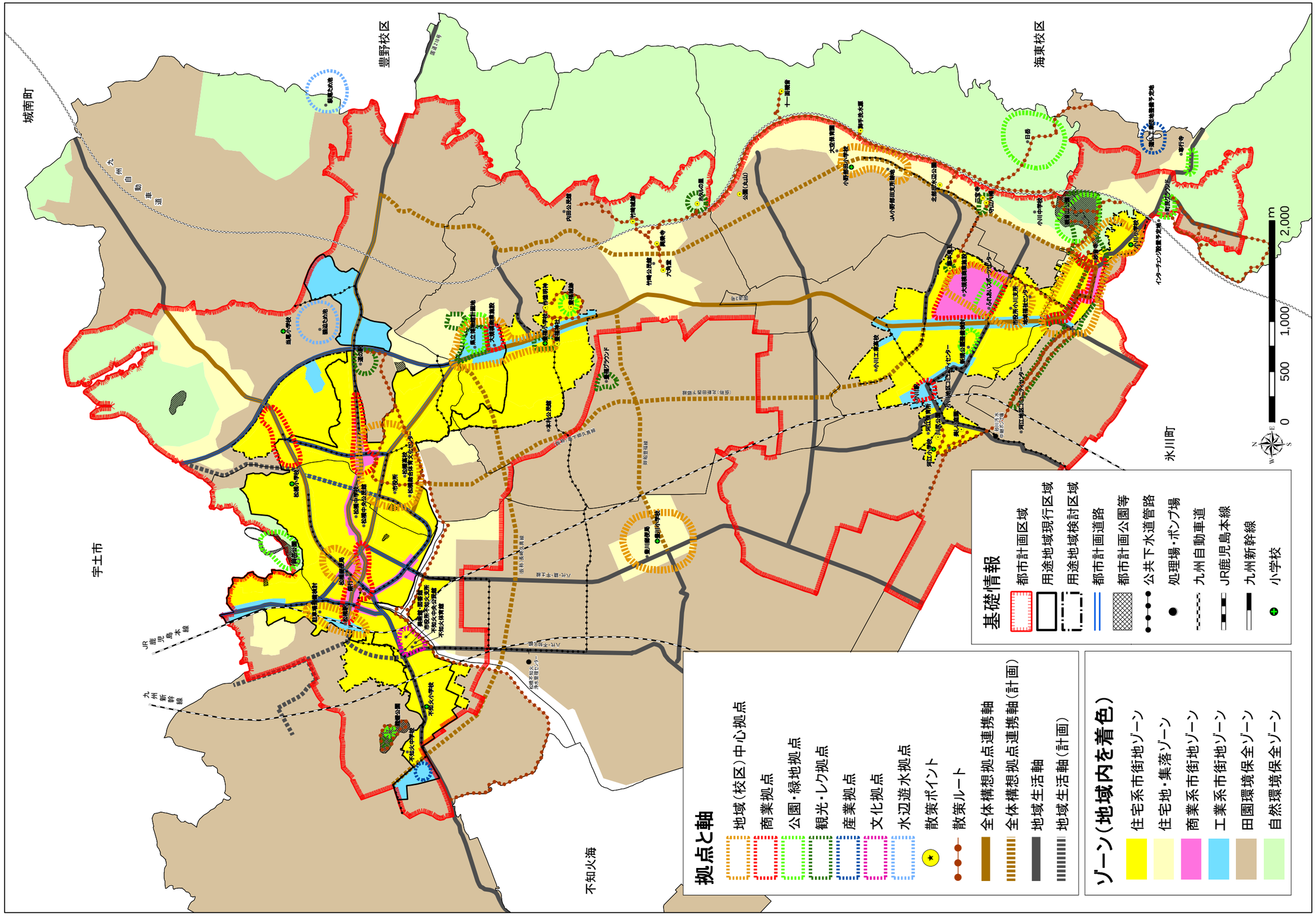
■都市防災

細街路の改善やオープンスペースの確保等を総合的に推進し、防災活動の円滑化および避難路等の整備に努めつつ、避難路に位置づけた道路沿道は、建築物の耐震・不燃化を誘導します。

とくに、本地域は、市役所小川支所周辺の公共施設集積や大規模商業施設、および施設周辺の広幅員道路等を有する地域であり、それらを活かして本市南部の防災拠点地域として避難施設等の充実を図ります。

なお、本地域は、公共施設集積地等を含めて市街地においても浸水害が見受けられ、また、布田川・日奈久断層が縦断する地域で、土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険区域も比較的多い地域であり、自然環境に配慮した河川改修や建築物の耐震・不燃化等のハード事業の推進とともに、防災組織や防災訓練の充実といったソフト対策を推進し、災害に強いまちづくりに努めます。


黒枠・図面表示範囲
不知火
当尾
松崎
豊川
豊福
小野部田
公園
観音
河江
小川
基礎情報
都市計画区域
用途地域現行区域
用途地域検討区域
都市計画公園等
九州自動車道
JR鹿児島本線
九州新幹線
小学校
拠点と軸
地域（校区）中心拠点
商業拠点
公園・緑地拠点
観光・レク拠点
産業拠点
文化拠点
水辺遊水拠点
散策ポイント
散策ルート
全体構想拠点連携軸
全体構想拠点連携軸（計画）
地域生活軸
地域生活軸（計画）
ゾーン（地域内を着色）
住宅系市街地ゾーン
住宅地・集落ゾーン
商業系市街地ゾーン
工業系市街地ゾーン
田園環境保全ゾーン
自然環境保全ゾーン
東部地域
西部地域
氷川町
海東校区
竹崎城跡
竹崎公民館
六角堂
貴乗寺
水辺の里
公園（丸山）
十一面観音
大空保育園
小野部田小学校
御手洗水源
JA小野部田支所跡地
北部田水辺公園
日岳
公園・緑地拠点
観光・レク拠点
三宝寺
守山八幡
小川中学校
観音山公園
公園・緑地拠点
沙育寺
小川小学校
地域（校区）中心拠点
商業拠点
（歴史・文化遺産としての商店街の保全・活性化）
インターチェンジ設置予定地
町民グラウンド
遠仏工業団地整備予定地
産業拠点
亨行寺
公園・緑地拠点
九州自動車道
国道3号
（仮称）北新田西下鶴線
（仮称）西下鶴久留線
小野部田小学校
地域（校区）中心拠点
大空保育園
御手洗水源
北部田水辺公園
観光・レク拠点
観光・レク拠点
三宝寺
守山八幡
小川中学校
観音山公園
公園・緑地拠点
沙育寺
小川小学校
地域（校区）中心拠点
商業拠点
（歴史・文化遺産としての商店街の保全・活性化）
インターチェンジ設置予定地
町民グラウンド
遠仏工業団地整備予定地
産業拠点
亨行寺
公園・緑地拠点
海東校区
竹崎城跡
竹崎公民館
六角堂
貴乗寺
水辺の里
公園（丸山）
十一面観音
大空保育園
小野部田小学校
御手洗水源
JA小野部田支所跡地
北部田水辺公園
日岳
公園・緑地拠点
観光・レク拠点
三宝寺
守山八幡
小川中学校
観音山公園
公園・緑地拠点
沙育寺
小川小学校
地域（校区）中心拠点
商業拠点
（歴史・文化遺産としての商店街の保全・活性化）
インターチェンジ設置予定地
町民グラウンド
遠仏工業団地整備予定地
産業拠点
亨行寺
公園・緑地拠点
海東校区
観光・レク拠点
大漁機商業施設
ふれあいスポーツセンター
地域（校区）中心拠点
市役所小川支所
地域福祉センター
商業拠点
小川駅
河江保育所
河江小学校
川原公園
美しい庭園
小川地区コミュニティセンター
新規公園整備検討
公園・緑地拠点
観光・レク拠点
河江地区コミュニティセンター
砂川汚水中継ポンプ場
小川工業高校
0
500
1,000
2,000
m


城南町
豊野校区
海東校区
氷川町
宇土市
不知火海
九州自動車道
JR鹿児島本線
九州新幹線
0
500
1,000
2,000
m
基礎情報
都市計画区域
用途地域現行区域
用途地域検討区域
都市計画道路
都市計画公園等
公共下水道管路
処理場・ポンプ場
九州自動車道
JR鹿児島本線
九州新幹線
小学校
拠点と軸
地域（校区）中心拠点
商業拠点
公園・緑地拠点
観光・レク拠点
産業拠点
文化拠点
水辺遊水拠点
散策ポイント
散策ルート
全体構想拠点連携軸
全体構想拠点連携軸（計画）
地域生活軸
地域生活軸（計画）
ゾーン（地域内を着色）
住宅系市街地ゾーン
住宅地・集落ゾーン
商業系市街地ゾーン
工業系市街地ゾーン
田園環境保全ゾーン
自然環境保全ゾーン